

◎産業建設部所管

問 船揚げ場にある引つ張り台車の改修工事を行ったが、港湾管理者である県から補助金は出なかったのか。

答 調査したが県の補助金はなかった。本町の水産業を振興する目的で改修を行った。

問 認定農業者に対し農業機械等・施設の整備に要する経費の一部助成を行っているが、周知は。

答 年度の初めに農家の方からの営農計画書提出時に周知をしている。さらにホームページへの掲載、農協と連携しながら、広報も行っている。

問 さといもの産地化のため、機械化を推進することはよいことだが、生産量が増え、価格が暴落しないか心配だ。さといもの6次化を考え、販路拡大の努力をしていることがわかれば産地化が進むのではないか、考えは。

答 担当者がJAと何度も協議を行い、松山市農協で販路開拓に取り組んでもらうことができた。今後、6次化を見据え、研究・検討を続けていく。

問 松前保育所跡地に計画している雨水貯留施設の配置及び進捗状況は。

答 1万立米を貯留できる施設を計画し、現在、基本設計をしている。施設の配置は確定していないが、保育所跡地だけでは難しいため、義農公園も若干利用した施設配置を考えている。



雨水貯留施設の設置により、安全・安心な暮らしを！

問 施設の老朽化対策では、まちづくり課は道路、河川、公園、町営住宅など多岐にわたる。課として維持管理計画、補修計画は作成しているのか。

答 まちづくり課が管理している施設の中で、橋梁、舗装及び町営住宅は、個別に長寿命化計画を立て、計画的に修繕するようになっている。

意見 個別に計画を立てていると、年度によって集中するのではないか。一覧にしておけば、計画も立てやすいのではないか。

答 長寿命化計画を立てる場合は、おおむね、どの施設も10年ぐらいの計画を予算の平準化を図る形で立てている。各年度で、突出した予算にならないように配慮をしている。

意見 長寿命化計画は、それぞれ所管別の管理になっていることが多い。DXを取り入れると、効率的に更に計画しやすいということも聞いている。今後の計画の中に、取り入れることを検討してほしい。

答 まちづくり課の施設管理には大きい事業費がかかる。庁内で共有し、今後進めていきたい。

問 耕地整理が終わり30年以上経過つとあぜや水路に、ひび割れや水漏れ箇所が見受けられる。

施設の老朽化が進行し、今後は修正や更新にかかる費用の増加が見込まれるが、通学路に面した水路の安全対策は。

答 農業用水路については、まちづくり課所管の土地改良事業と、産業課所管の多面的事業の両面で、維持管理をしている。

通学路の水路については、痛ましい事故が起こらないよう、危険箇所には防護柵を設置する事業を進めている。



安心して通学できる対策を！

